

愚図愚図散歩151 日日是好日134

2026.03.01



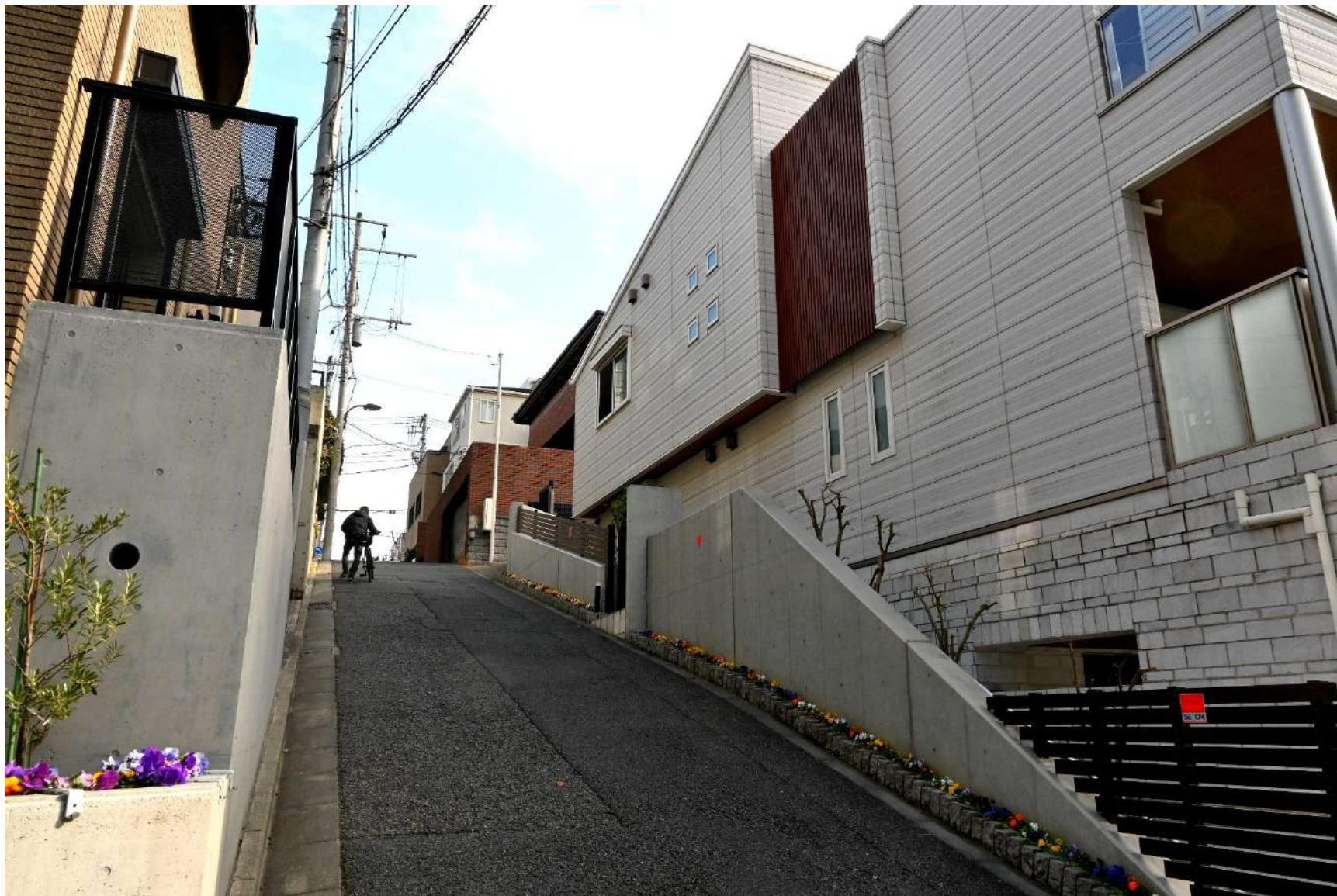
制作・撮影 浦野俊之



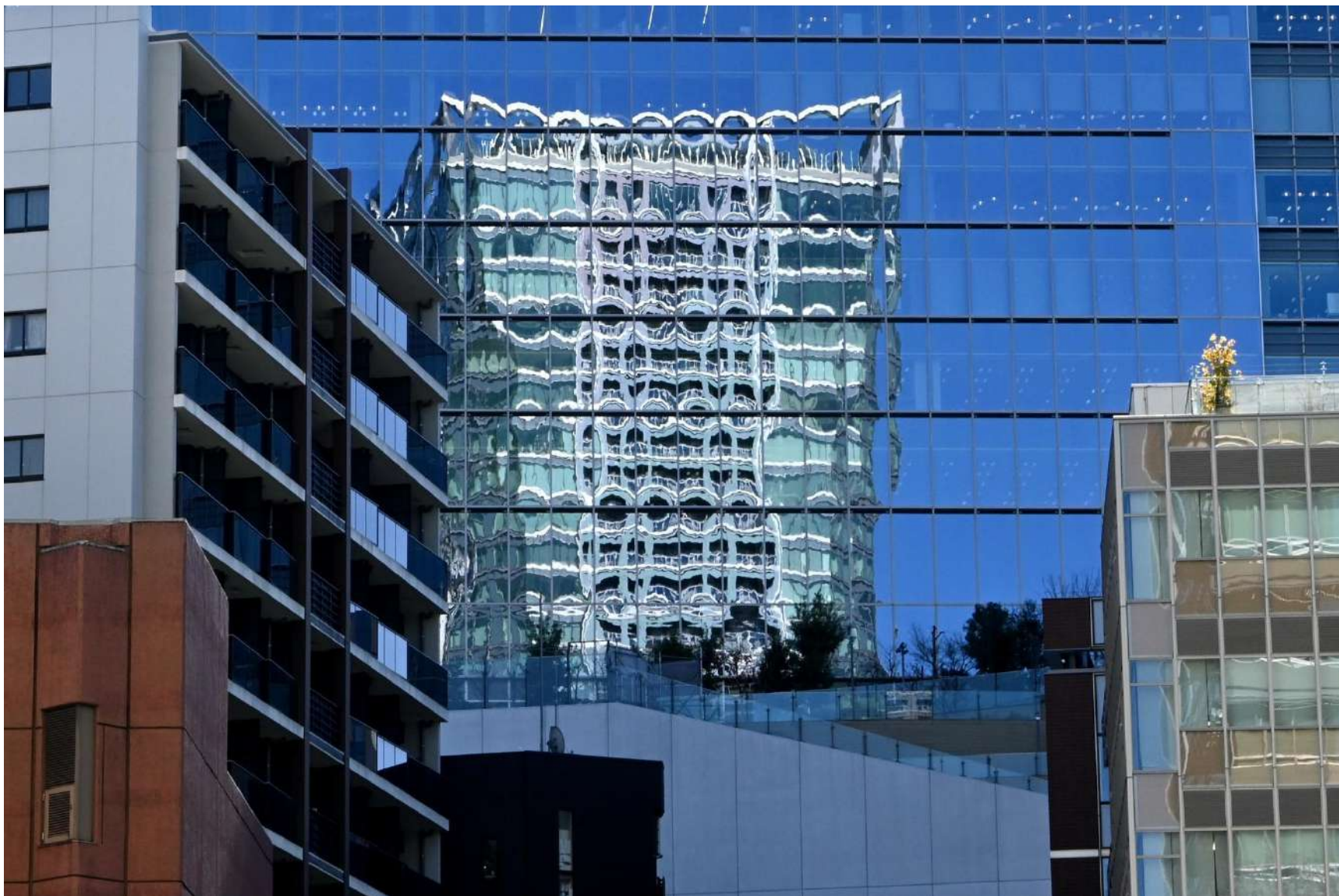
紅白の梅咲く家やお目出たし。(文京区白山4-6)



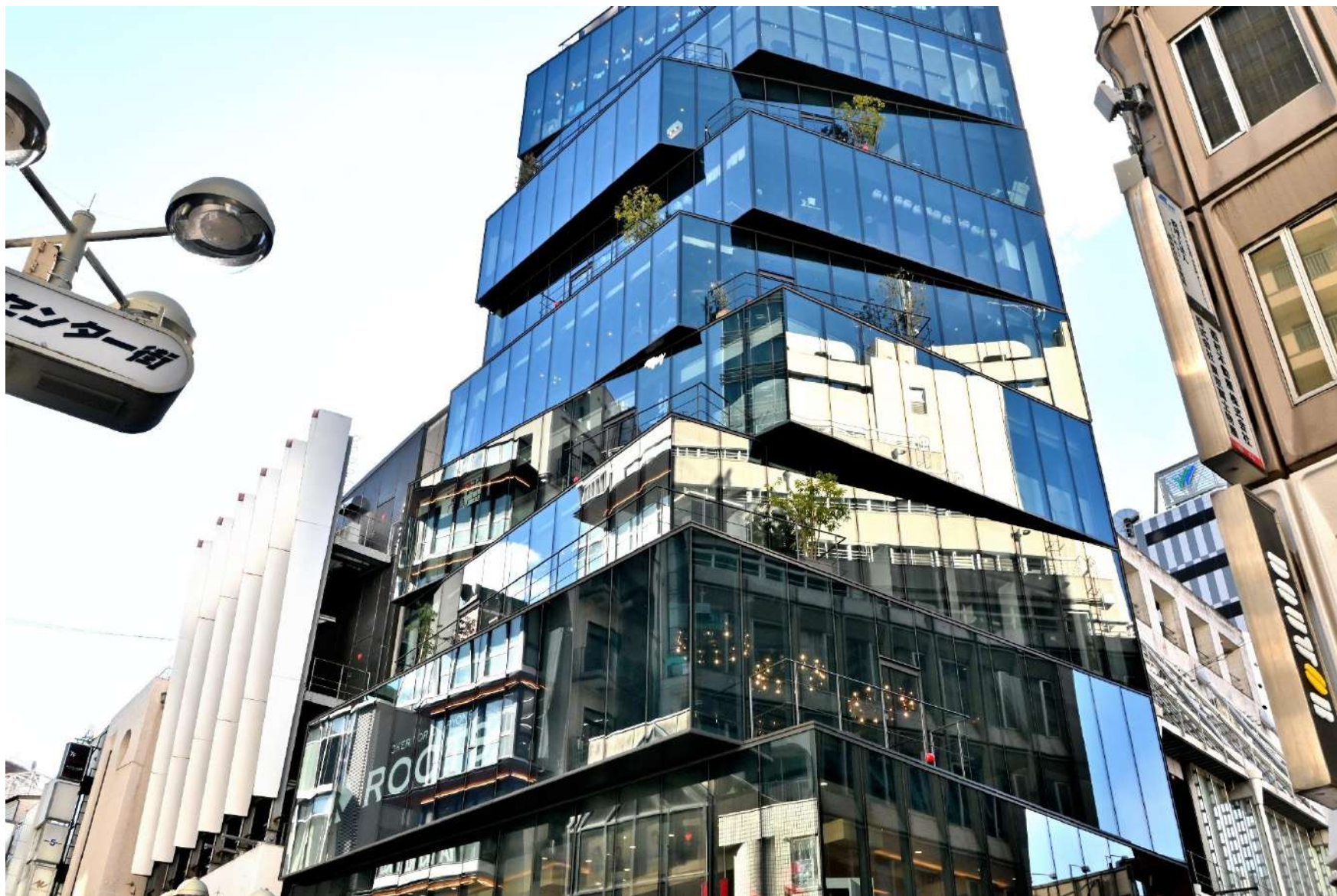
サザンカの窓(文京区西片2-19-4)



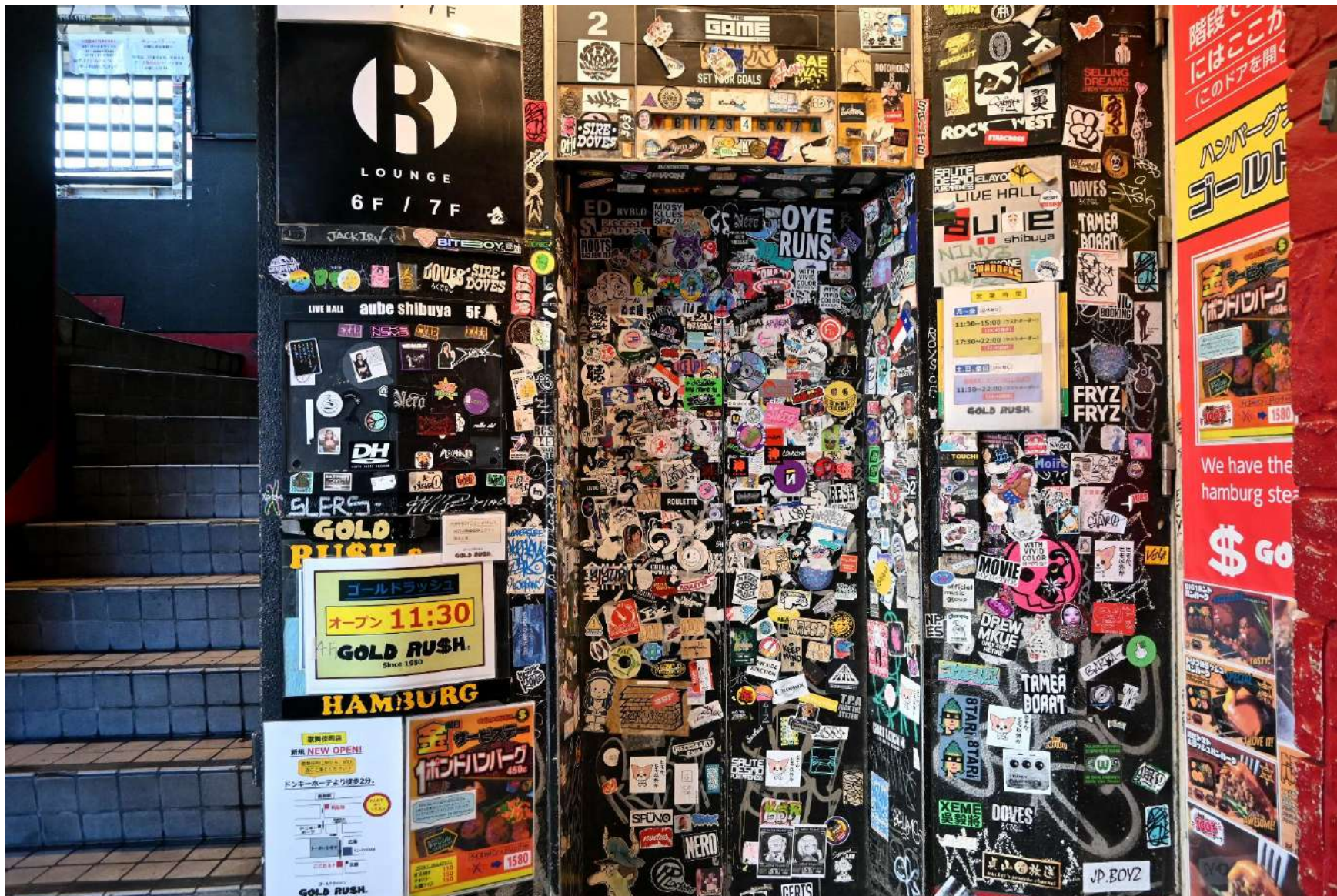
「丸山新町と駒込西片町の界にある坂を胸突坂といふ。坂道急峻なり、因って此名を得、左右石垣にて、苔滑か」と『新撰東京名所図会』にある。台地の中腹から、本郷台地に上る坂、坂上から白山通りをへだてて、白山台を望む。「胸突坂」とは急な坂道の呼び名である。 コピペ」(現在は文京区西片2-15と白山1-24の間、地名が替わりました。)



ビルの鏡面に映る不思議なビル(渋谷)



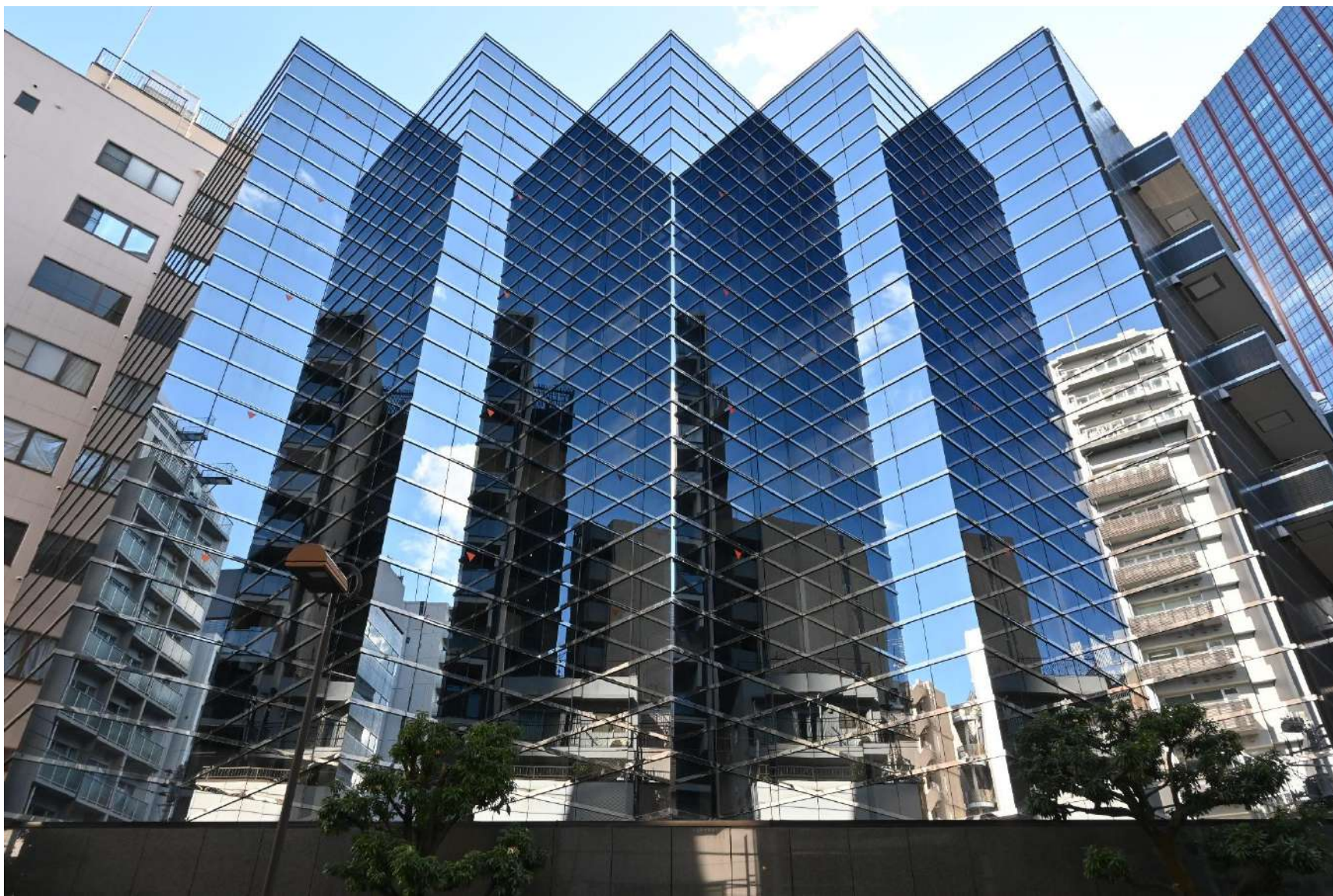
何と魅力的なビルなのでしょう。建築家のセンスが存分に発揮され、センター街に集まる若者の心をとらえているのでしょう。
(渋谷区宇田川町4-7)



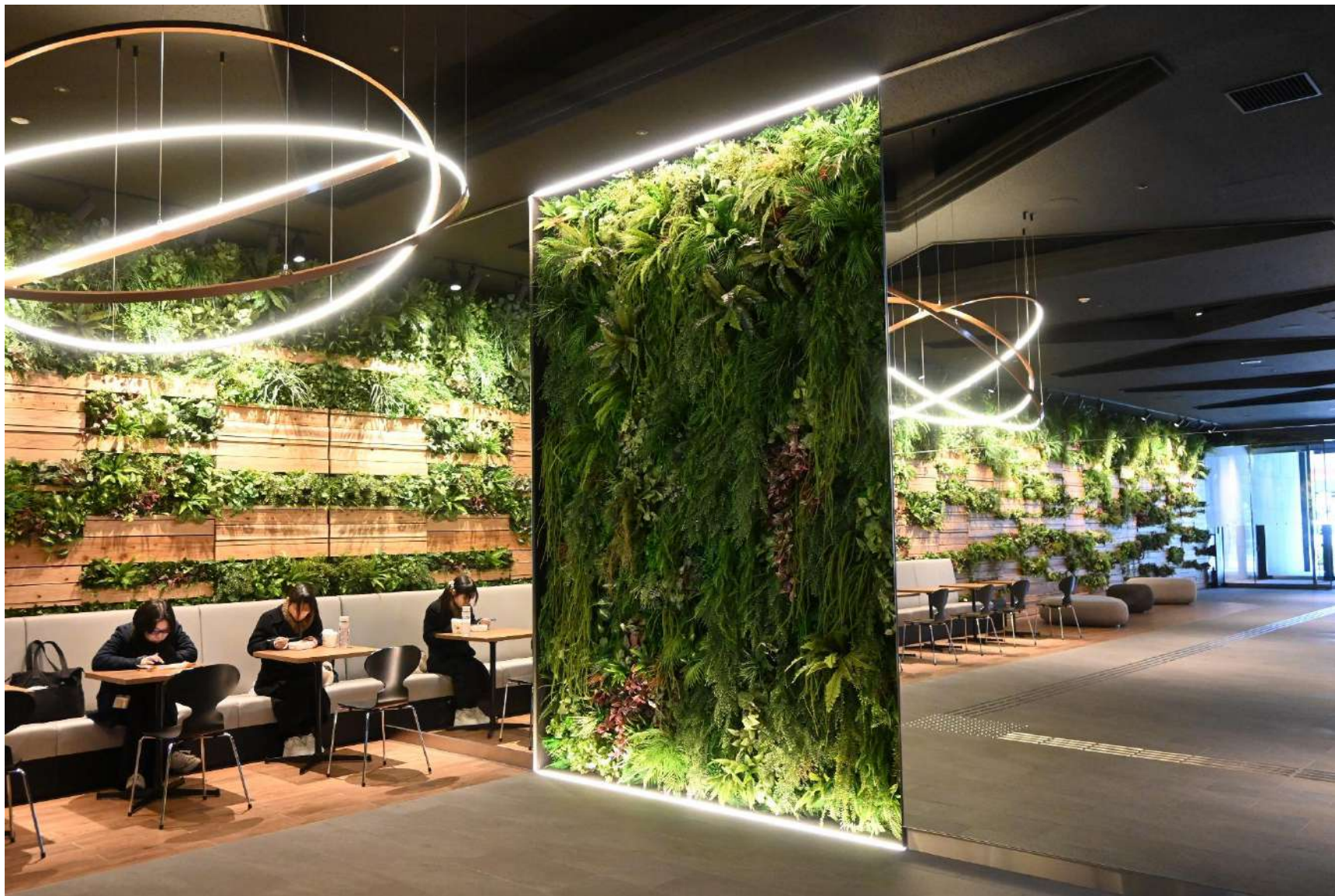
壁と言いエレベーターのドアと言い、シールがべたべた。テナントの大部分が、ライブハウスやクラブが占めている賃貸ビルだそうです。自己表現の為なののでしょうか。(渋谷区宇田川町4-7)



渋谷センター街 以前には無かったこの様に画素数が大きな画像が派手派手に展示されていました。時代が変わりました眼鏡屋さんです。(渋谷区宇田川町33-1)



屏風が半開きで立っている様なビルに出会いました。曇り日と快晴の日では見た目の印象が変わるのでしょうか、辺りのビルを映し込んで、見事な碧いファンタジーの光景に心癒されました。(港区三田3-4-9)



大きなオフィスビルのエントランスホールの中程にある仕切り、画面三分割された左は、机が並び社員の方が休んでいます。三人の内手前の二人は実像、三人目は二人目の女性が鏡に映る虚像。真ん中は、緑の植物の壁、手前の右空間は、大きな鏡で広いロビーを映しています。錯覚を交えてとても気持ちの良い空間でした。（台東区浅草橋5-20-3）



大久保彦左衛門菩提所の立行寺の山門がピンクだと初めて気が付きました。何回かこの寺を見学しましたが、今まで一度も気が付きませんでした。山門と言えば、地味なこげ茶色が多く、他所では見た事がありません。どのような理由があつてのことなのでしょう。(港区白金2-2-6)



月島の街を歩いて居ると、目の前にロボットが走って来ました。何だろう？ どうしてだろう？ と思っているうちに走り去ってしまいました。後で調べると、楽天が中央区で展開する「無人配達」に米AVRIDEのロボット＝日本初 晴海全域、月島と勝どきの一部(晴海周辺)で展開する自動配送ロボットによる小売店や飲食店の商品配送サービス「楽天無人配送」を拡充すると発表した。(コピペ)時代が変わり始めました。



古民家カフェ 色彩小町、周りの古民家はどんどん改築され、新しいビルに変わっています。その中で、古民家の風情を残しながら、新しく変わったカフェに心休まります。(中央区月島2-6-9)



気が付くと目の前の座席に大きなマフラーが残されています。周りは全員スマホをいじって気が付かない様子。忘れものですよと声をかけた人は居ませんでした。下車駅の改札口で、6号車の2と3の間の座席に忘れ物がありますと、報告しておきました。



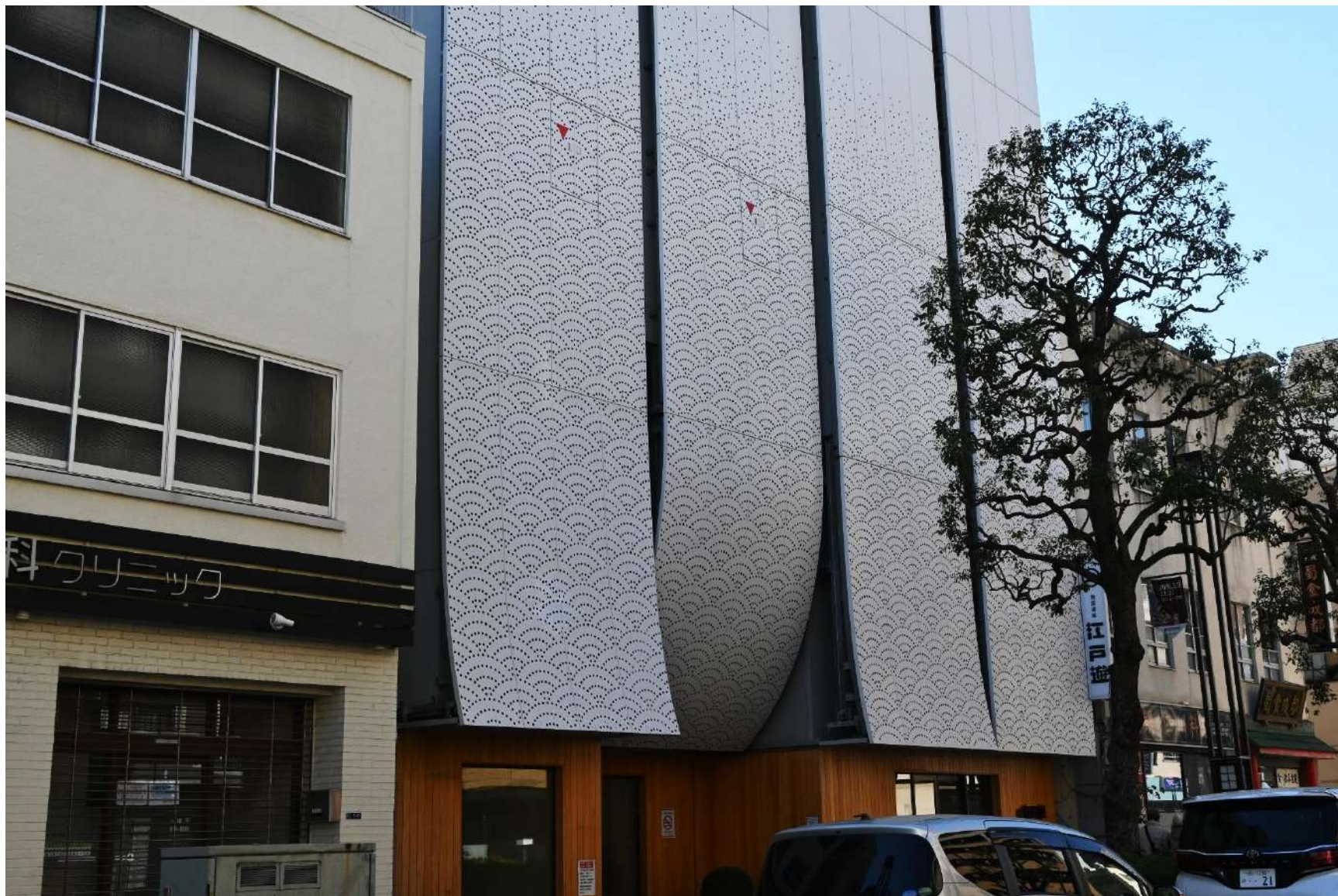
家が派手な色でペイントされているのを見かける様になりましたが、こうして2色で彩色された家も出て来ました。多分これからは、多彩な色で飾られた家が増えてくるような予感がします。(北区滝野川6-5-10)



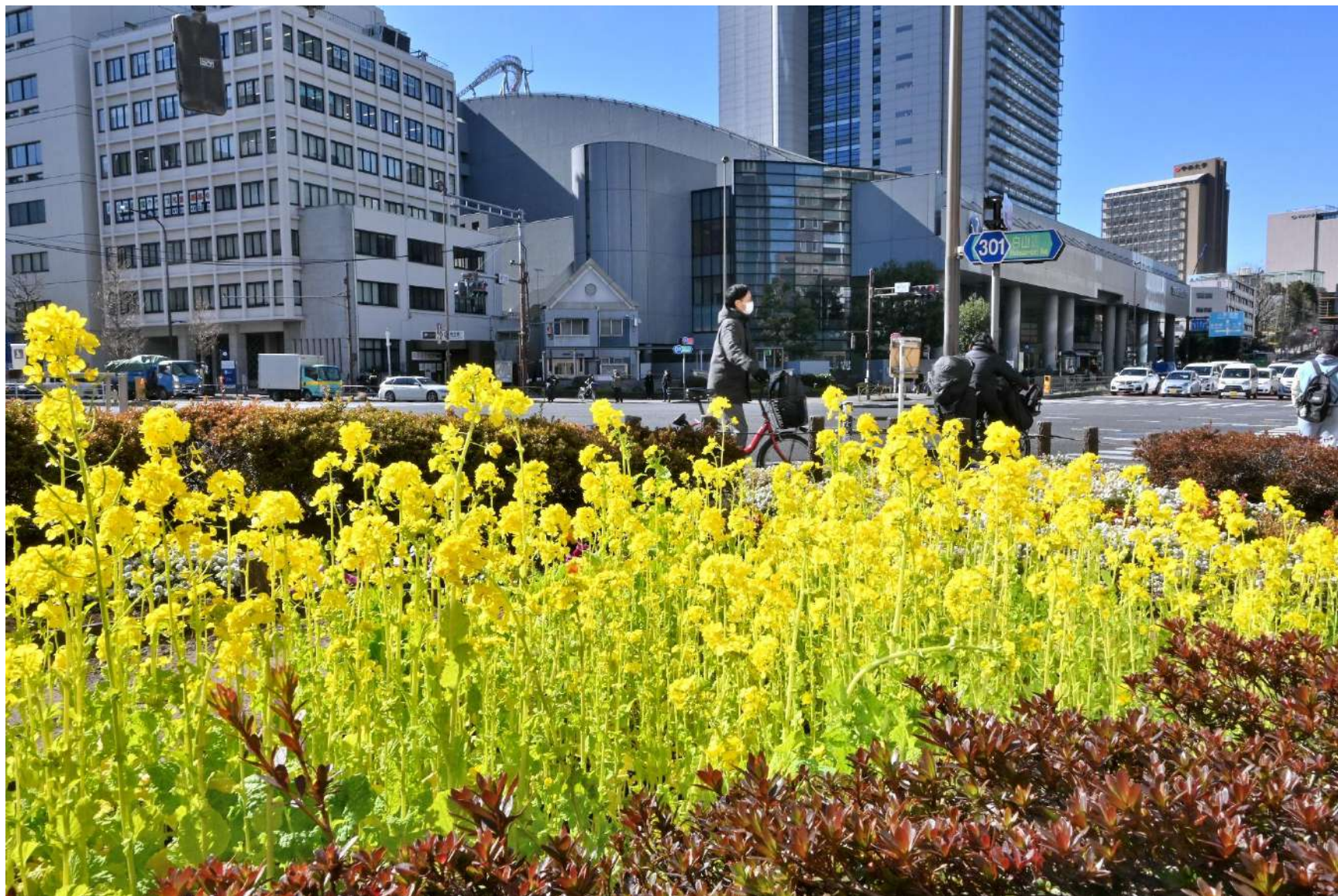
左片側だけの家(港区白金台3-12)



ナニコレ ピンクの衣装に青いふんどし？横綱とんかつの店の前に干してありました。店内の土俵の上で だすこい田中 相撲ショーがあり、お客が着用して、元力士と取り組む際に着用する衣装でした。（墨田区立川3-1-11）



北斎通りに洒落た外観のリラクゼーション・スパがありました。白銀のひととき大きな暖簾が、新しい江戸遊の入口です。進化した大浴場や岩盤浴、サウナで体をあたためるもよし。ほろほろとほぐれるようなひと時をお過ごしください。と説明されていました。洒落た外観は、白銀の暖簾をデザインしたものだったのですね。（「江戸遊 墨田区亀沢1-5-8」）



寒い立春の日、もうこんなに菜の花が咲いていました。(春日町交差点)



銀座四丁目に変な鳥居が見えたので、ガラスのドア越しに記録しました。映り込みが激しいのでどうかと思いますが、銀座のど真ん中に「繫宮(つなぐ)神社」が建立されたのに驚きましたので掲載しました。(中央区銀座4-5-6)



蕨駅東口近くの六差路で、もう少し判りやすい写真が撮れないかやって来ましたが、難しく、上手いきませんでした。交差点の名前は何か検索しますと、蕨駅東口傍の六差路の名前は**「五差路」**です。と表示されどうしてだろうと色々検索しましたが、ダメでしたが、偶然、コンテンツは AI を使用して生成されました。詳細情報蕨駅東口傍の六差路は幸町六差路(さいわいちょうろくさろ)と呼ばれていますと表示されました。場所:埼玉県蕨市塚越1丁目付近、蕨駅東口広場のすぐ近く。



その六差路の一本の道の真ん中を駐輪場として設定されていました。今まで見た中で一番長い駐輪場でした。



夏には緑なのでしょうが、寒い2月の季節には、ヒグマが背中を向けて座っているようです。(江東区白河2-8-6)



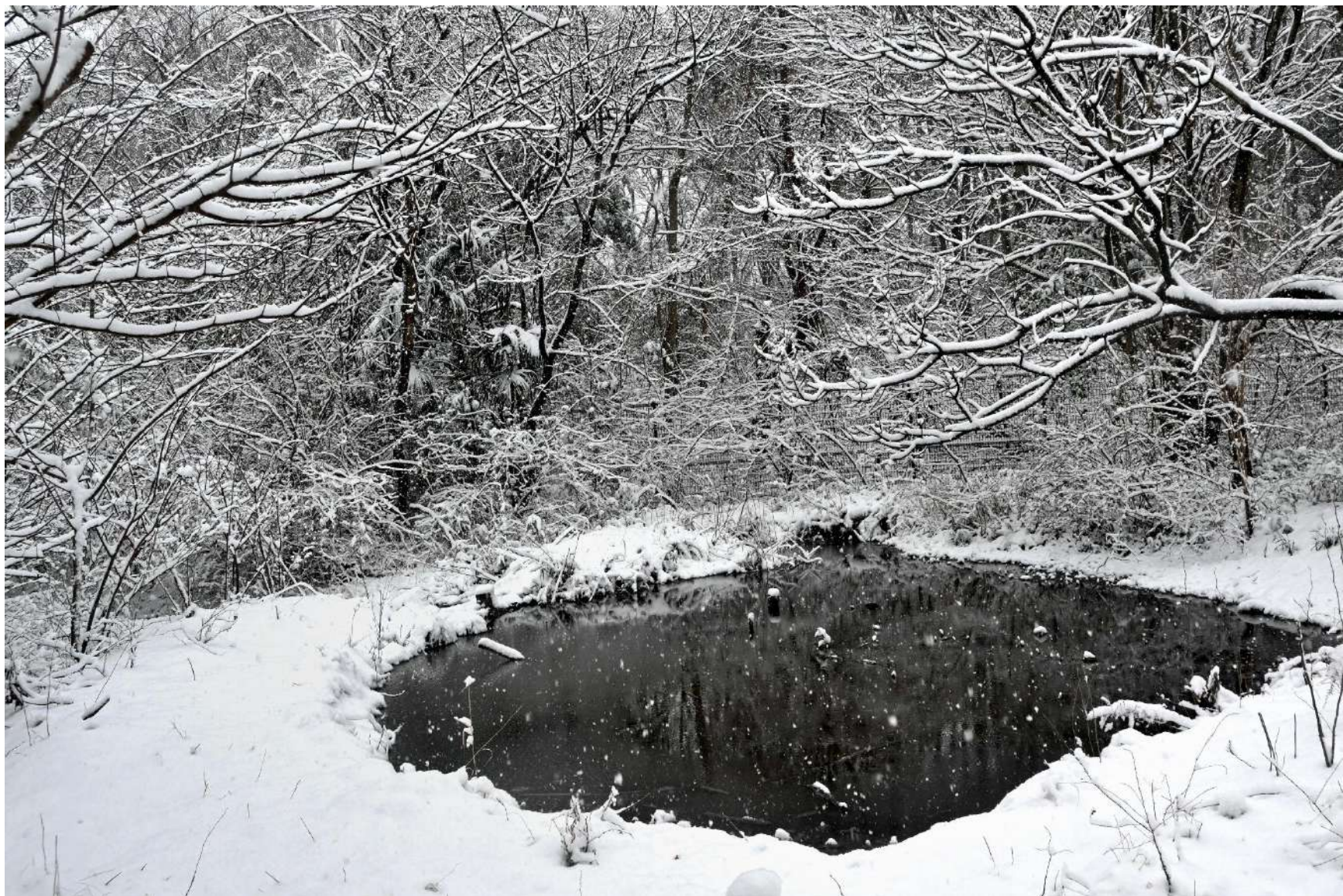
朝目を覚ますと外は雪、急いで身支度、近所の雪景色を撮って廻りました。



私の住む街は、起伏の激しい坂、階段の多い処で変化があり、久しぶりの雪景色を愉oshimimashita。



雪が降ると、自然に足が向く赤羽自然観察園のふるさと農業体験館、日本の原風景と思えるような藁ぶき屋根に積もる雪を眺め、この場に居合わせる幸せを感じながら愚図愚図散歩を愉oshimimashita。



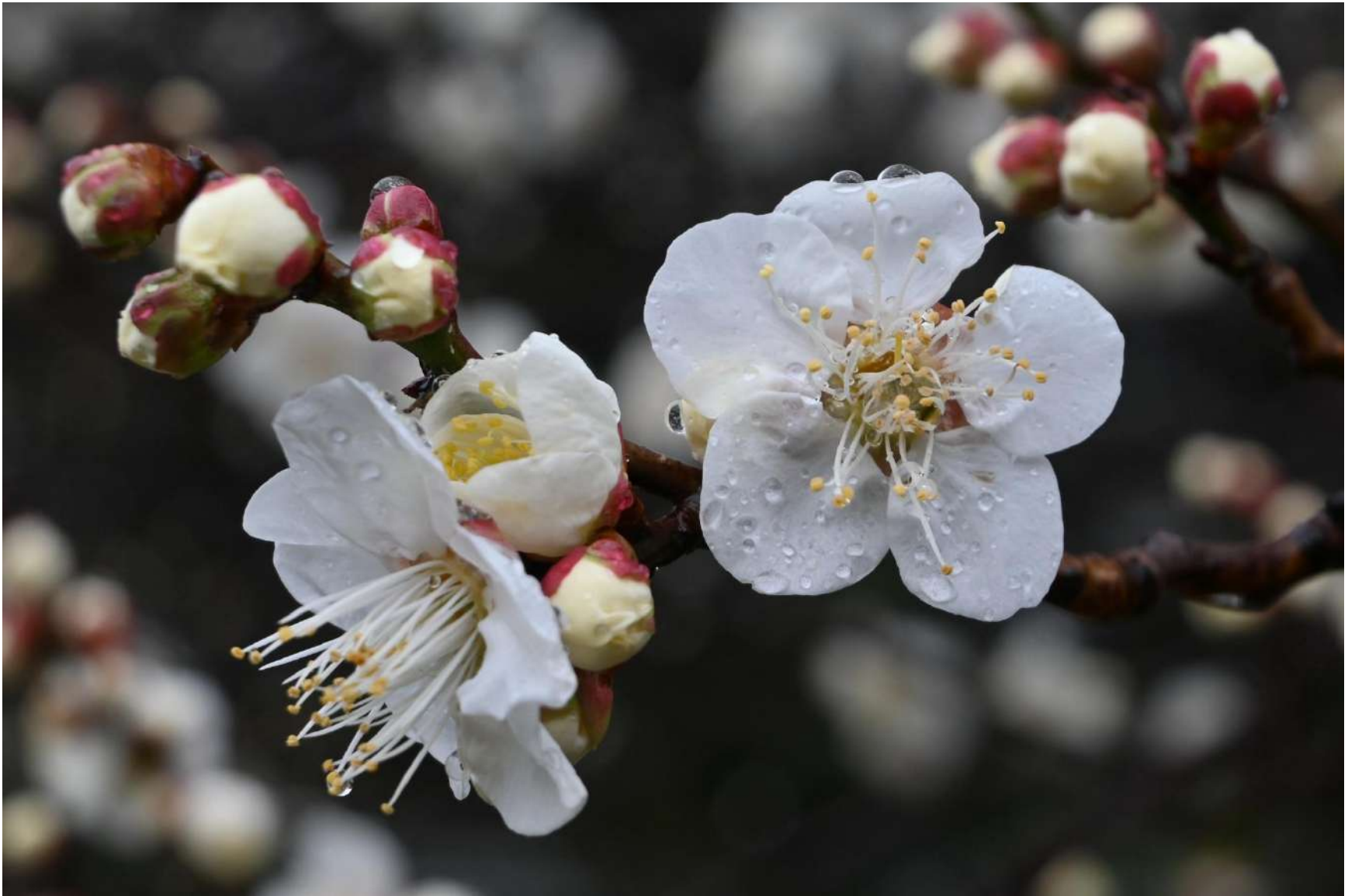
立入禁止の湧水地から流れ出した水が一時溜まるトンボ池に降る細かな雪に見惚れました。



この世で初めて出会う白銀の世界の美しさの中で、歓喜の叫びを上げながら遊ぶ子供の歓びを身近に感じ、一緒に歓声を上げたい気持ちで撮影を続けました。



白梅の花に覆いかぶさる雪の白さに心奪われます。



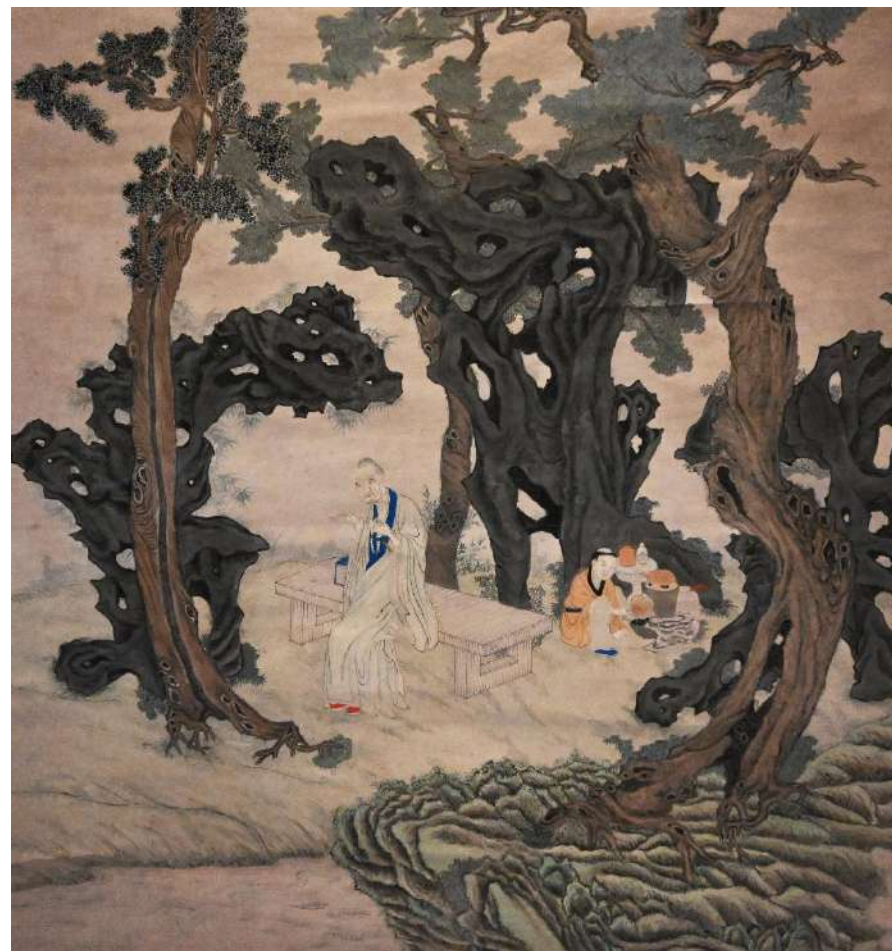
雨の日の梅花

雨の日は博物館、今月二回目の東博詣です。私は朝鮮の百済時代の彫刻が好きで、この菩薩半跏像も造形のあこがれとして鑑賞しています。実は撮影禁止なのですが、頭を下げシャッターを切ってしまいました。この像は心を込めて表現する手本として、私の心の中に納めています。素朴に見えますがほぼ全身を一度に鑄造する優れた技術が見所ですと解説されています。

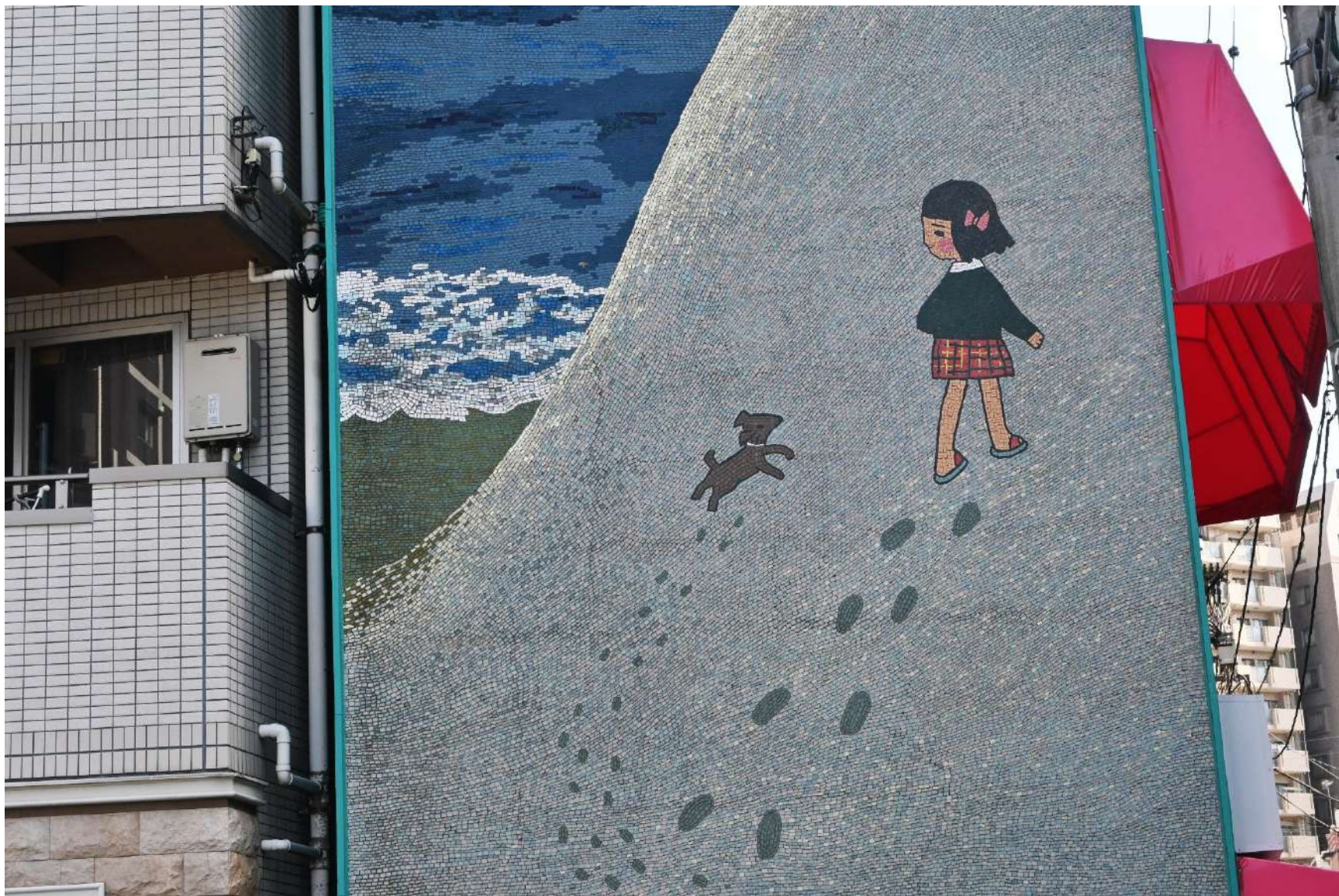




私はこの三彩駱駝が好きで、必ず後ろの三彩鎮墓獸(ちんぼじゅう)と共に会いに来ます。唐時代のしっかりした造形に、赤 褐色 藍色の釉を塗り、場合によってはこの様に大胆な掛け釉を流す技に圧倒されます。



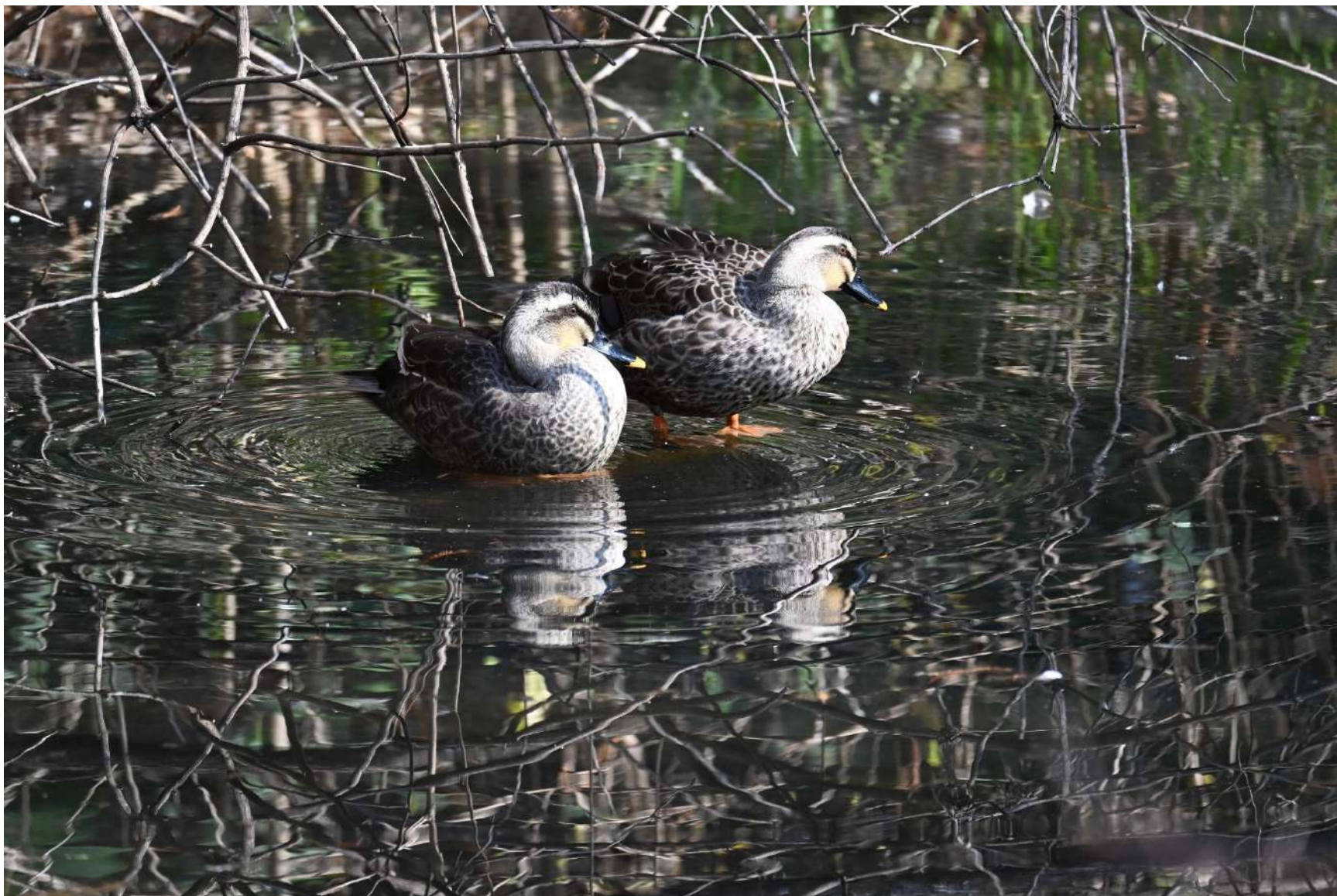
今月一番心惹かれた作品は 樹下人物図軸 丁雲鵬(てい
んほう)筆 1619年 明末の奇想趣味を代表する存在として知
られています。本作では奇怪に捻じ曲がる石や樹木に囲まれ
て茶を愉しむ僧侶を描いていますと説明されています。こんな
石や木を見た事はありませんが、画家の感性ではこの様に表
現したかったのでしょう。心惹かれます。



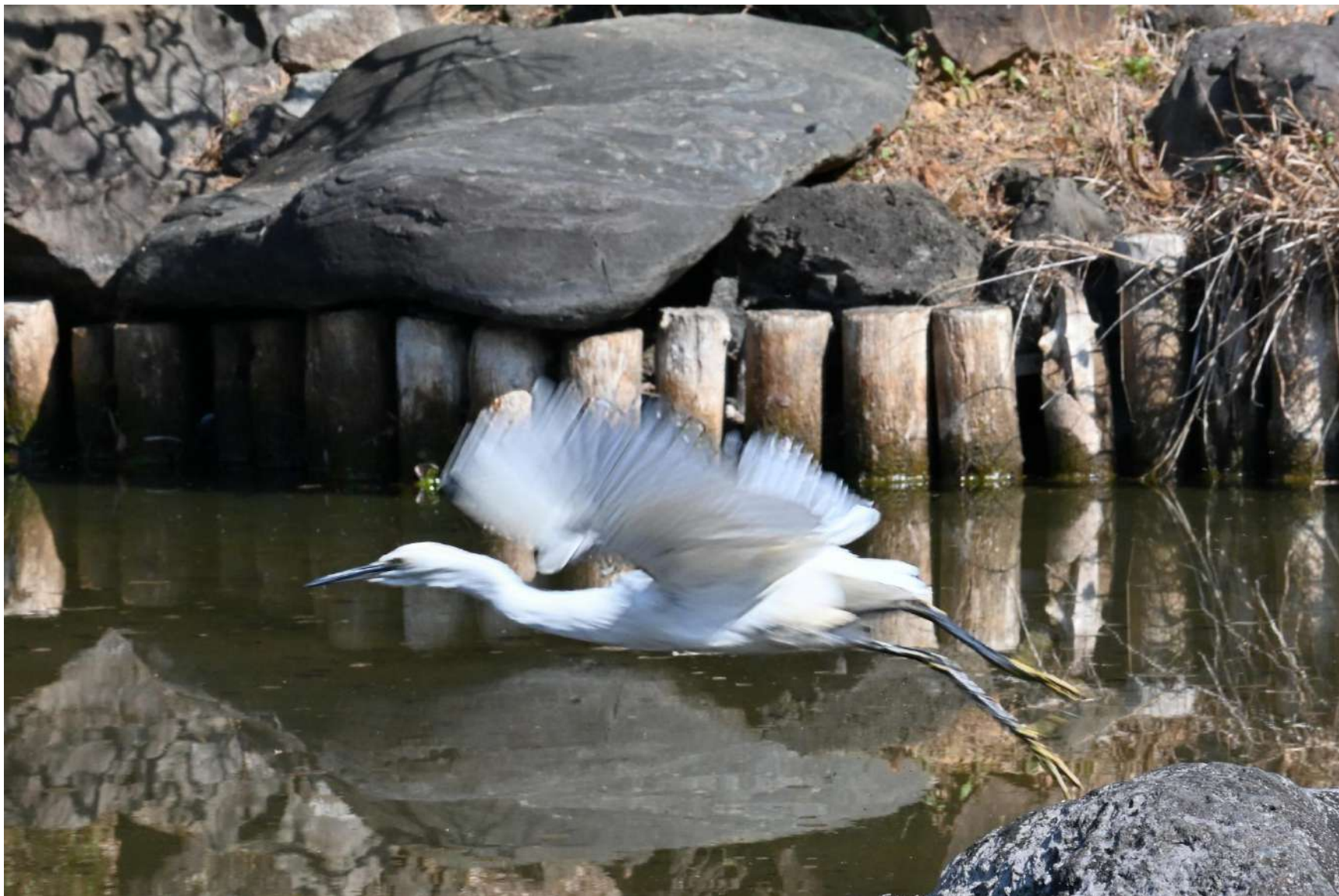
週刊新潮の表紙でご存知の谷内六郎の壁画がまだ残っています。場所は東京メトロ南北線赤羽岩淵駅そば岩淵交差点にあります。昭和レトロ懐かしい壁画です。表参道の山陽堂の壁画は現在見られない状態なので、こうして見ると昭和を懐かしく感じるモニュメントです。
(北区赤羽1-54)



久し振りに北とぴあの17階、展望室から眺めると、今まであった街が高層アパートに囲まれ、不思議な風景に変貌しています。やたら細かく平屋、二階家が建っているのが不思議な感じに見えます。豊島五団地方向の眺めです。



小石川植物園で憩う鴨のつがい。



岩から飛び立つシラサギ。



植物園には多数の古木の梅が咲き、江戸時代の水墨画の様な枝ぶりです.



隅田川大橋から永代橋、その向こうに大川端リバーシティ21の眺め、随分高層マンションが増えました。



隅田川テラスの鉄柵に、後ろに見える永代橋のデザインが生かされているとは、初めて気が付きました。